＜こんにちは「向日市長」＞

向日市が“ふるさと”になる「まちづくり」

安田　守さん（京都府向日市長）

高橋直樹さん（京都自治総研副理事長・自治労京都府本部執行委員長）

司会／岡本哲也さん（京都自治総研専務理事・自治労京都府本部書記長）

岡本　昨年４月、初めて向日市長に当選されました。改めてお祝い申し上げます。

市長は、2003 年に向日市議会議員に就任され、1 期を務められた後、2007 年から昨年まで、2 期連続して、府議会議員としてご活躍されました。

議員のときは、意見を言う側でしたが、市長になられると、意見を言われる側になるなど、いろいろ変化があったと思います。市長になられていかがですか。

安田　そうですね。市長になると、自分の市のために一生懸命働けるので、大変、幸せなことだと感じています。

府議会議員時代は、京都府全体の「均衡ある発展」という視点で考えて府全体を見渡す必要がありました。今は、向日市のことを最優先に考えることができます。私は、向日市で生まれ育ちましたから、このまちのために働けることは、ありがたいことです。

ただ、私は、議員の経験から、議会への対応など、議員との関係は大切にしたい、しなければならないと思っています。

向日市議会議員や京都府議会議員を経験せずに市長になっていたら、今のような市政運営ができなかったと思います。議員経験は、大きなプラスになっています。

高橋　府議会議員であったことで、京都府全体の自治体の状況や、府の内部事情もわかりますからね。

安田　それに、人脈ができたことも大きいですね。京都府議会は100年の伝統がありますから、議員と理事者との関係がうまく構築されており、非常に勉強になりました。

「子育て世代」の転入者が増加

岡本　向日市は、安心して子育てできるよう、「子育てコンシェルジュ推進事業」や、妊娠期から子育て期までのワンストップ窓口の設置、関係機関との連携による出産・育児の支援体制など、「子育て支援」が充実していますね。

安田　「子育て支援」の充実は、とくに力を入れてきました。その結果、向日市の転入者と転出者をみると、子育て世代は転入超過となり、他の世代は転出超過となっています。つまり、子育て世代が多く住んでいるということです。

「子育てコンシェルジュ」は、人気があるんですよ。「コンシェルジェ」は、妊婦さんに保健師が面接し、地域の子育てに関する情報を提供したうえで、必要に応じて、個別支援プランを作成する事業です。転入された方の中には、知らないまちで子育てすることを不安に思う人も多く、そうした人を、「コンシェルジュ」がフォローします。

高橋　今、「保育園落ちた、日本死ね」と題したブログが話題になっています。

働き続けようとする親が増えている半面、保育所の数が不足している。保育所に入所できなければ、仕事を続けられません。そうした不安や怒りを、政府にストレートにぶつけたものですが、向日市の待機児童などはいかがですか。

安田　待機児童は、あと少しで解消できる予定です。今年の秋には、120人定員の民間保育所が市内にもう一つ増えます。

せっかく、子育てしやすいと思って住んでいただいた方を、どうやって定住につなげていくかが、これからの課題です。

高橋　政府は、待機児童を減らすため、定員19人以下の「小規模保育施設」では、22人まで受け入れを認める規制緩和を行いました。これについては、子どもの安全面を心配する声があがっています。やはり、保育所自体を整備することが必要ですね。

保育所をつくる場合は、民間を誘致されるのですか。

安田　市民の皆様からお預かりしております税金には、効率的な運用が求められます。民間保育所を誘致した方がより効率的に税金を使えるのであれば、そうすべきだと思います。ただ、「公」にしかできない仕事、「公」がやるべき仕事は、しっかりとやらなければいけない。その点は、メリハリをつけてやっています。

「子育て支援」も、難しいところがあります。マンションが建って、子育て世代が増えても、いずれそのマンションの住民は高齢化します。行政がハコモノをつくりすぎると、将来的に困ることになります。

反対に、顕著な例ですが、再開発した地域にある第4向陽小学校は、私が小学生の時は児童数が1200人くらいでした。それが、一時期には300人弱に減りました。ところが、現在はおよそ570人です。児童数が400人を切った時に、校舎の1つを転用して、老人福祉施設にしましたが、今は教室が足りなくなって困っています。施設は使い方が難しいですね。

高橋　京都市でも、同じ悩みを抱えています。

安田　数年先のことを考えても、なかなか予想

通りになるとは限りません。少子化で人口減少も予測されていますから、考えながら対応していかなければなりません。マンションが増える可能性もありますので。

岡本　向日市は非常に交通の便がいいまちですね。大阪にも京都にも近いため、通勤しながら、子育ても十分できます。

安田　京都駅からは数分ですので、共働き世帯の方が、大阪や京都に通勤することも可能です。

向日神社（重要文化財）

文化財を活かしたまちづくり

岡本　「ふるさと向日市創生計画」には、「歴史を活かしたまちづくり」として、長岡宮跡や古墳群を中心とした、文化財を活かしたまちづくりや、観光振興を進めようとされていますね。

安田　私は、昔から向日市に住んでいて、住みやすいまちだと思っていますが、寝て起きるだけのまちになっているのではないかと懸念しています。向日市の駅で降りて、まちを見学する人も少ないように感じます。

向日市には、縄文や弥生時代の遺跡や、3 世紀後半から 4 世紀初め頃の古墳がたくさんあります。

また、784 年に、桓武天皇によって、平城京から「長岡京」に遷都されました。「長岡京」は、向日市、長岡京市、大山崎町、京都市にまたがる東西 4.3 キロ、南北 5.3 キロと、平城京よりも大きく、ほぼ平安京に匹敵する規模で、794 年に平安京に遷都されるまでの、わずか 10 年間でしたが、日本の歴史上、重要な時代を築いた都です。ちょうど現在の皇居と霞ヶ関にあたる建物が向日市にあり、政治・文化の中心は向日市にありました。

その少し前の 718 年に、「明神（みょうじん）さん」の名で親しまれている「向日神社」が建立されています。本殿は、「三間社流造（さんげんしゃながれつくり）」という建築様式で、国の重要文化財に指定されており、明治神宮のモデルになったとも言われています。

中世の乙訓地域は、「西岡衆（にしのおかしゅう）」が治めており、村単位で独立した城館を構える武士の集団で、大名の支配に属さず、トップは置きませんでした。重要な時には、議会のような合議で決めるなど、民主共和国のような集団的自治を営んでいたそうです。

高橋　「長岡京」は、名前からイメージして、長岡京市にあると、一般的には思われています。

安田　これだけ交通の便がいいし、暮らしやすいまちですので、あえて宣伝する必要がありませんでした。固定資産税や都市計画税、個人市民税などの税収も、比較的多いので、切羽詰まらずに財政運営ができていました。

しかし、よく考えると、せっかくこれだけ資産があるのに、十分に活用できていませんでした。向日市は今のところ人口が増えていますが、少子高齢化の現代は、戦略的に自治体運営をしていかないと、先細りになります。

その戦略の第一に、「歴史を活かしたまちづくり」を位置づけました。今まで、あまり知られていなかった歴史遺産を宣伝して、これからは向日市に観光客が来てもらえるようにしていきたいです。

また、来てもらって見学するだけでなく、食べたり、お土産を買ってもらったりすることも必要ですが、そのしつらえが、まったくありませんでした。それでは、人は来ないですね。お土産を買ったり、長岡京の時代に宮中で食べら

公園に整備された「長岡京大極殿」跡

れていた料理が出るレストランで食事したりするなど、ここに来なくては体験できないことが、何もなかった。

ですから、まずしつらえをして、もっと大々的にアピールしたいと思います。人がたくさん来ても、「こんなところか」と思われてはいけませんので、今は前準備をする時期だと考えています。

高橋　ここに来る前に、公園に整備されている「大極殿」跡を見てきました。周辺には、まだたくさんの住宅が建ち並んでいますね。

安田　「大極殿」があった場所がわからなくなった時期もありました。今の国会議事堂にあたる「朝堂院」も西向日にありますが、それよりもまず「大極殿」を整備したいと考えています。

現在、「大極殿」跡の土地を、徐々に取得しています。一定程度取得できたら、大極殿を元の姿のように一部復元する予定です。

歴史を「市民の誇り」に

高橋　タケノコも、向日市は産地なんですね。

安田　西部一帯には、丘陵が南北に細長く横たわっていて、丘陵の竹林から産出されるタケノコは、「物集女のタケノコ」として、全国にその名が知られており、日本有数の産地です。向日市で採れたタケノコは、東京などのホテルや料理屋に出荷され、かなりの高額で取引されているようです。

私は、子どもの頃から向日市のタケノコを食べており、柔らかいのが当たり前だと思っていましたので、シャキシャキして、歯に挟まるタケノコを食べて、びっくりしました。

高橋　今日、お昼ご飯に、向日市の朝堀りタケノコが入ったチャーハンをいただきました。すごく柔らかいのに、私も驚きました。

市では、広報のために「むこう　むこう」というポスターを作られていますね。なかなか印象的なポスターです。

安田　あのポスターは6種類あって、モデルの大半は公募で選ばれた市民の皆様です。電車にも貼っていて、向日市出身の方にも喜ばれています。

こうした「歴史を活かしたまちづくり」に取り組むきっかけは、2015 年に、国から「歴史的風致維持向上計画」の認定を受けたことです。

この認定を受けた自治体は、京都府内では京都市と宇治市、そして向日市だけです。それだけ歴史的に重要なまちですので、向日市民にとっての誇りとなることですから、しっかりアピールしていかなければならないと思っています。

私は、心に温めている企画があります。JR 西日本が 1990 年に始めた「三都物語」というキャンペーンがあったでしょう。JR の「三都」は、京都・大阪・神戸でしたが、向日市は、桓武天皇のつながりで、平城京・長岡京・平安京ではどうかと。本当の意味での「三都物語」です。

高橋　観光客を誘致するには、ホテルも必要ですね。泊まるところがないと、観光客は通り過ぎるだけです。

安田　ホテルであれば、ビジネスホテルではなく、レストランや結婚式場などを備えたシティホテルを誘致したいと思っています。開発業者にとっては、マンションが手っ取り早いようですが、5年、10年先をみて、ホテル進出をしようという事業者を探しています。

岡本　向日市のホームページをみると、「トップ」ページの前に「総合トップ」ページがあり、「くらし」か「歴史・観光」を、最初に選べるようになっています。そういうホームページの自治体は、珍しいですね。

安田　向日市の方針をホームページにも反映しようと考えて、今年から運用しています。

市民の皆様に、「ずっと住みたい」と思っていただけるまちにするためには、誇れる向日市になる必要があります。しかし、現実は、自分たちのまちの魅力をあまりわかっていただいていないようですので、子育てが終わると転出していかれる。小学校や中学校では、「ふるさと学習」で子どもに教えていますが、親御さんが知らないこともあります。そこで、「ふるさと向日市創生計画」に、「向日市検定」の実施を盛り込みました。

これは、市民の皆様に、自分のまちを知っていただくことが大きな目標です。「向日市検定」で、向日市には「あんなすばらしいところがあるんや」、さらに「住みよいまち」と、思っていただけるようにしたいです。

昔からずっと住んでいる人も、外から移住してきた人も、すべての人に「向日市がふるさと」だと思っていただけるまちをつくっていきたい。それが、私の大きな目標です。

ポテンシャルを活かした土地利用

岡本　向日市は、日本で3番目に狭い「市」だそうですね。市の中心部は住宅街、東部は平たんで農地が多く、交通機関が集中しているため、都市計画には、ご苦労されているのではないでしょうか。

安田　まちの魅力を高めるためには、土地活用が重要です。しかし、向日市で開発されていない土地は、新たに建築物を建てたり、増築することを控えなければならない市街化調整区域だけです。

そこで、交通機関が集中するポテンシャルの高い土地を、なんとか活用できないかと考え、府議会議員時代に府と相談し、農地の土地区画整理事業に取り組みました。その結果、阪急電鉄京都本線「洛西口駅」東地区には、イオンモールができ、坪単価が3万円くらいでしたが、今はゆうに100万円を超える価格となっています。農地でも、それくらい有用な土地があります。

また、発展の可能性のある土地は、地区計画をどんどん活用していく予定です。ただ、地権者の思いと、進出する企業やホテルの意向をマッチさせる必要がありますね。

私は、もともと農家出身ですから、農業も大切にしたいと思っています。自然も大切にしたい。やみくもに開発するのではなく、守らなければならない自然は守り、有効利用できる土地は開発する。これらを戦略的にやっていく必要があります。

商店の活性化で活気あふれるまちに

岡本　向日市は、「商業の町」のイメージが強いですね。「激辛商店街」は有名です。

「ふるさと向日市創生計画」の中の「商工業の活性化」では、「市外からも買い物客が訪れる活気あふれる商店があるまち」として、「商店」の活性化を強調されています。

これは、非常に特徴のある施策です。今後、「商店」の活性化に向けて、どのような施策を考えておられますか。

安田　商店街は、空き店舗が一軒もないんです。ただ、昼間に人が少ないために、夜に開店する飲食店が多く、昼間は閉まっています。夜だけでは、「商店の活性化」というには不足です。とくに、中心市街地周辺は、昼間の活気を取り戻さないといけません。

阪急「東向日駅」には、人がたくさん集まって賑わいがありましたが、大型スーパーが撤退

してしまい、寂しくなっています。東向日駅周辺は、向日市の中心なので、もう一度活性化させて、地元独自の食事やお土産を売る商店をもっていきたいと考えています。

国道 171 号線からアクセスがいいところは、工業地域ですので、進出する企業を誘致し、駅から近い場所には商業施設を誘致するなど、メリハリをつけて、市全体の活性化を図ります。

高橋　今日、お昼をいただいた中華料理店は、テレビにもよく紹介されていると聞きました。店では、思わぬ人にも出会いました。

安田　あの店は、私もよく行きます。「激辛商店街」といっても、そういう商店街があるのではなく、加盟店が向日市全体に点在しています。商店の方たちには、本当に頑張っていただいています。

市役所の窓口業務を、駅前に移転

高橋　2018 年度には、阪急「東向日駅」前から撤退したスーパーが、戻ってきますね。新聞で、そのスーパー併設施設に、市役所窓口の大部分を移転する計画があると、報道されました。これほどの規模で窓口機能を移転するのは、異例だそうですね。

安田　建設される場所は、閉店した大型スーパーの跡地で、グループ会社が再度、建物の 1、2 階に出店を計画しています。その施設の 3、4 階に、市民の方にとって便利になるように、窓口機能を中心に移転し、それ以外の部署は、今の市役所に残す予定です。

高橋　京都市でいえば、区役所ができるというイメージですね。

安田　そうですね。職員も 200 人近くが動きますので、東向日駅周辺もかなり活性化すると思います。課題は費用対効果です。

岡本　現在の市役所を耐震補強するには、仮設の建物も必要になりますからね。

「平和」のための行動を率先して実践

岡本　向日市では、1984 年に「世界平和都市宣言」を行い、これまで 6 期にわたって「平和行動計画」を立てておられます。

「世界平和都市宣言」に類する宣言は、他の自治体でもありますが、「行動計画」まで取り組んでいる自治体は、全国的にも珍しいですね。

安田　「行動計画」は、1984 年に「宣言」が出され、続いて 1986 年に策定しました、「恒久平和」と、「核兵器の廃絶」に向けた取り組みです。

私は、祖父が戦死したため、父親の顔を知らずに育った父や叔父の苦労を目の当たりにしています。戦争の惨禍は繰り返してはならない、平和な世の中を築くべきで、平和のための活動は、率先してやっていきたいと思っています。

歴代の市長からの申し送りのなかにも、「平和と人権の集い」や、広島「平和祈念式」への市民代表派遣事業の継続が入っています。私は、もう一歩、踏み込んで、平和首長会議にも参加したいと思っています。平和をめざすことは当たり前のことでなので、行動することが大切です。

高橋　気持ちでは「平和」のために取り組みたい思っていても、それを前面に打ち出される市長は少ないですね。

安田　これからは、市長になったことでもう一段、進められます。

高橋　ある意味、縛りがなくなったわけですね。

安田　そうですね。今は市長として、市民の皆様にとって有益かどうかが、いつも判断の一義的基準となりました。

岡本　今日は、お忙しいところ、お時間をいただき有り難うございました。今後とも、市民のためにご活躍されることを祈念して、これで終わりたいと思います。